



全国高校生フォーラムに参加した羽田野智子さんからの報告です。

◇ 全国高校生フォーラムに参加しました

日時：2019年12月22日(日) 10:00～16:30

場所：東京国際フォーラム ホールE1・ガラス棟G

全国の SGH (スーパーグローバルハイスクール) 指定校・アソシエイト校、WWL コンソーシアム構築支援事業拠点校・事業共同実施校・事業連携校、グローカル型指定校・アソシエイト校のうち100校以上の高等学校が集まり、これまで研究してきた内容や成果をポスター発表の形で発表しました。発表とその後の質疑応答はすべて英語で行われました。また、午後からは国連の定めたSDGs に沿って分科会が開かれ、今後の日本の教育などについて活発に英語での意見交流が行われました。



◇ 全国高校生フォーラムに参加した感想

以前からずっと参加したいと思っていた「全国 SGH フォーラム」。今年も参加できないと思っていた中、10月に先生から参加の連絡を頂いた時は、とても嬉しかった。初めての参加、初めてのポスター発表ということで不安も大きかったが、それ以上にこのフォーラムで全国から集まった高校生に出会い、色々と議論できることができた。

今回は、夏に行った「中学生向け模擬国連」について発表を行うことにした。事前準備はとても大変だった。中学生向けの模擬国連の報告書を読み返すとともに、改めて模擬国連について調べ、理解を深めていった。特に模擬国連への参加と教育格差がどう関連しているのかを考えるのはとても大変だった。発表の軸がブレないよう何度も紙にまとめ直し、どんな質問にも対応できるようにしていった。計画性のなさから迷惑をかけながらも、多くの先生のご協力のもとポスターを完成させることができた。

当日は午前中にポスター発表を行い、午後からは自分と同じ分野を調べた生徒たちと自分の研究したことをもとに、1つの問題について話し合う討論会を行った。ポスター発表ではほかの高校の発表も聞き、研究内容の面白さやポスターの仕方の工夫など、多くのことを学ぶことができ、とてもいい刺激となった。同じ「教育」の分野を調べていても、それぞれの高校で着眼点が全く違い、自分の興味のある教育分野の幅をより広げることができたと思う。自分の発表では、研究内容に対して色々と質問を頂くなかで、まだまだ自分の考えが甘かった部分や、新たな視点を見出しができ、とても良い機会となった。討論会では“日本の英語教育”について英語で議論を行った。英語を使って他の生徒の意見を聞き、それに対して根拠をはっきりさせて自分の考えを伝えるこの討論は、自分にとってとても楽しく心地よかった。自分の高校から一歩外に出てみれば日本中の高校生の中には同じように問題



意識を持った高校生がいるということを知り、改めて学校という閉鎖した空間への固執はいけないと思い、今後も積極的にこういった場に参加したいと思った。自分のグループの討論の中で、どうしても答えが出ない問題があった。結局時間内に答えを出すことはできなかったが、そのグループの誰一人としてその問題を“しようがない”や“無理”的の一言で片付けず、真剣に解決策を考え出しておらず、やる気のある人たちとの活動は本当に楽しいと感じた。そしてこの問題を今後の自分の研究課題の1つにしていこうと思った。

今回、このフォーラムへの参加は自分にとってとても良い機会にすることができた。もう一度このような機会がある場合には、次はさらに研究して、自分自身がより納得いくものを発表したいと思う。また、私の SGH 活動は今年度で終了となるため、今後は後輩の育成にも貢献していきたいと思う。今回の経験で学んだことのひとつに、私1人が経験しても意味がないことがある。確かに今回のフォーラムは自分にとっては良い機会にすることができた。しかし、関高校にとって、岐阜県全体にとって良い機会にすることができたかどうかについては今後の私の働きにかかると思う。全国の研究レベルの高さを知る事で、今後の SGH 活動への意識や取り組み方より良くなる可能性があるにも関わらず、今回このフォーラムに1年生が1人も参加しなかったことは、非常に残念なことだ。来年度はこの関高校から「全国 SGH フォーラム」に参加したいと自ら声を上げる生徒が現れてくれることを願って、後輩の育成に貢献していきたい。

今回、学校の先生をはじめとする多くの方のご協力のおかげで、このフォーラムに参加することができた。関わってくださった全ての方々に感謝の思いでいっぱいだ。

